

## 2012年3月 冬のドイツへ SL を尋ねて

3月9日(金)

いつものように昨夜遅くまで準備をしていた。朝は外来の仕事が残っていたのでばたばた済ませたので愛犬ジャズとの散歩が出来なかった。

8時19分小竹駅発に乗車。駅まではタクシーで向かった。列車は通勤時間帯で乗客は多いのかと思ったがすでにラッシュ時間帯は過ぎているようで思ったより少なかった。

博多駅よりタクシーで国際線ターミナルへ向かう。9時45分に着くとチェックインのピークも過ぎているようで行列はなかったので直ぐにチェックインを済ませ、出国手続きを済ませた。例によって待合室で新聞を読みながらコーヒーを飲むともう搭乗開始であった。

10時30分発でほぼ定刻に出発。韓国上空は比較的に見透しが良くプサン市がきれいに見えた。12時前に着陸したが気温は零度とのこと、トランジット手続きを済ませ、待合室でパソコンのネット接続を試した。

真に残念なことに昨日時間をかけて行った日本のテレビのネットでの視聴の接続が旨く行かずテレビを見ることが出来なかった。設置時は旨く行ったのだがガッカリである。

約2時間の時間をつぶし14時15分プラハ行きに搭乗するが出発は20分ほど遅れた。出発後早速昼食サービスだが歯の具合が悪いので魚料理をチョイスする。夕食も魚にした。食事は控えめに食べ、パンも取らなかった。

ビデオを見て、パソコンを入力して例によって長い長い昼間を過ごす。時々外を覗くと雪景色が続いていたが地面がところどころで見えており雪の量は多くないようであった。



前回プラハへの飛行路はサンクトペトロブルグからポーランドとドイツの国境沿いを南下したが今回はモスクワ付近からまっすぐプラハへ向かって行った。高度を下げたチェコの国内はほとんど雪が無かった。

空港では両替後に入国、手続きはまったく問題なく、ターミナル前のエアポートシティエクスプレスにて市内へ向かうが、車内に2名の日本人の娘さんが乗ってきた。

ホテルはバス停のすぐ近くである。チェックイン後各種充電を行い、入浴をしてプラハ本駅へ行きインターナショナルの窓口でバリデートを済ませたがパスポート番号と有効期間の記載は無かった。夕食は機内で次々に食べて事もあつし、レストランに寄るのも億劫でパンを購入し部屋で済ませ日記をつけて早々に眠る。

10日(土)

朝3時に目が覚める。ネットにて自宅のテレビが見られるように調べて格闘するも出来なかったが接続がただなのはありがたい。



6時前から市内散歩に出かけた。朝日の射す宮殿を見にカラ橋まで行くが曇空で日が射すことは無かったがすでに観光客が居て写真を撮っていた。6時半から食事に間に合うように急いでホテルへ戻った。

食事の後で一旦部屋に戻って7時10分にホテルを出る。思いがけず時間がかかった。駅前で時間の記録に駅の写真を撮って駅構内に入る何と発車まで後2分ではないか！！何と私の時計が3分も遅れていたのだ。プラットフォームまで走ってやっと間になった。パンや水も買わずに乗ったがしょうがない、気づかずにパンでも買っていたら大変なことであった。

途中は予定通りで順調で乗り換えもスムーズであった。山沿いになってきても雪が少ないがスキーを持った人々も居るのでスキー場には雪があるのだろう。小さな峠を越えたときは雪が多くなっていたがそれでも・・・、スキー場が見えたがその周囲にだけ雪がある状況で滑走している人もみえたがカチカチだろうかなー。

チェコからドイツへの境界がわからないままに予定通りに Zittau に到着。目的の列車の到着、出発までは時間があるので撮影の場所を考えながら街を中心地へ歩いて行った。土曜日のためか閉まった店があったが休憩を兼ねて早めに食事を取りにレストランに入る。スパゲッティを食べたがまあまあで、デザートは我慢した。

結局、時間となったので駅へ戻り、機関車の付け替えを撮影後に Oybin 往復で14ユーロのチケットを購入した。客車の両数は4両と少なかったためかほぼ満席に近い乗客を乗せての発車となったが背中にリュックを背負った乗客が多い。ロケハンを兼ねて Oybin まで乗車。折り返しで Bertsdorf に戻って撮影を開始するも、期待に反し雪がまったく無いのには参った。小雨が降る中で Bertsdorf 駅はずれで Jonsdorf 行きの発車を撮影、その後折り返しの Oybin 行きの撮影のため検討をつけた場所へ歩く。小雨が強めになったためにあきらめて KurortOybinNeusdorf 駅で雨宿りをした。待つこと約1時間、やって来た列車の着発を撮影後に Bertsdorf へもどる。次回来る機会があれば Jonsdorf 方面に歩いての撮影が良いのではと思った。

戻ってきた列車にて Zittau へもどり、予定通りに16:45発の列車に乗る。車両はDBのディーゼルカーで、発車後連続アーチ橋を越えた途端に徐行となり車両が上下左右に揺れだし、チェコ国鉄の管内になったことがわかった。

Liberec に17時18分に着いたが小雨のため市内へ歩くことを止め駅で列車を待つ。Liberec 出発時には薄暗くなっていたがやがて車窓にスキー場が数箇所見え、ナイターをやっている所もあった。その後は Turnov で乗り換えた後はプラハまで列車の揺れで居眠りをしながら帰った。

駅よりまっすぐに劇場地下のビアホールに行き夕食をとった。オススメの鴨のロースト料理は



確かにオススメであったが量が多い。

ビールとワインを飲んで良い気分でホテルに戻り洗濯をして就寝す。

3月11日(日)

6時に目覚ましで起床、マイスリーの効果であろう。朝食後直ぐにチェックアウト、プラハ本駅へ行き水とおやつを購入後駅の時刻表を見ると目的の列車が無い！慌てて調べたスケジュールを見ると何と PrahaMasarykovo.n 駅発ではないか！急いで通り過ぎてきた PrahaMasarykovo.n 駅へ戻る。今朝は早めの行動でよかった！！



2両連結の列車で Most へ向かう。草原地帯を走るローカル線の旅で車窓は小麦畑と思われる耕作地と果実の木と思われる耕作地が多かった。Most の駅でケーキを売っていたので早速購入し列車を乗り換え、車内でおやつとして食べた。Usti nad Labemhi.n で EC (国際列車) に乗り換えた。EC では食堂車へゆき車窓からエルベ川沿いの渓谷を楽しみながら昼食をドレスデンに着くまで楽しんだ。

13時には駅前の InterCityHotel にチェックイン、一休みして市内観光へ。珍しく本日の予定



は無い。エルベ川河畔の歴史遺産地域を回って交通博物館へ行く。鉄道部門はやむをえないのだろうが中身が少なく少々がっかりであった。市内をちょっとろついてホテルへ戻り日記をつけ居眠りをしてまたまた日記をつけ20時に夕食へ出かける。駅構内のレストランでビールにソーセージとスパゲティにて済ませ早々に就寝。

3月12日(月)

遅ればせながら朝一で大翔の誕生祝をメールする。

6時に起床、小雨の様子。準備が出来ると直ぐに朝食へ行く。ホテルマンに尋ねると一日中雨との事だが急いで朝食を済ませ7時1分発の DB にて Fichtelberg 鉄道を目指す。Floha までの列車は IRE の頭文字が付いた特別の列車で何とディーゼルカーであったがどうも振り子車両のようでカーブでの傾きがきつく、スピードが速かった。順調に進み、予定通り Annaberg-Buchholz unter Bh にて下車。バス停を探すに同じ列車に乗っていたボードを抱えた若者も同じバスを探していた。列車で乗り継ぐよりスキー場に早く着くからであろう。

約50分の待ち合わせがあるのでスーパーの喫茶部でケーキとコーヒーで過ごす。ワンカットのケーキの大きいこと大きいこと、日本の2切れ半ぐらいあったのでさすがに全部を食べられず残してしまった。

ほぼ定刻のバスに乗車、運転手に下車駅の Niederschlag Mitte で降ろしてもらうように頼む。

高原地帯で道路沿いに雪が残った道を走り、雪が増えてきたところでバスを降ろされた。ここは撮影ポイントと検討をつけた Niederschlag 駅近傍で徒歩9分となっていた。バス停から前方へ5分歩くもそれらしき道が無く引き返す。バス停から1分も戻ると Bahnhof と書いた道標を見つけた。

が、雪が積もったままの小さな登り道で踏み後がかすかにあった。写真を撮っておくべきであったが雪や氷の道をすべりながらステップを刻んで上った。上りきったが線路は無く検討をつけて歩くと約10分で駅が見えた。さらに撮影ポイントを目指し先へ進むが思っていた場所とは違っていた。いまさら変更は効かないので雪の斜面を登って何とか場所を見つける。深いところは30cmほどもぐったが雪と森林で場所はまあまあだった。



しかし、小雨が降り続いて暗い上に、ガスの中になってきた。待つこと約30分、ガスにかすんだ SL を撮影する。一枚でも雪の中の写真ができれば良いのだが・・・。

直ぐに駅まで引き返すが時間が有るので線路上を次の駅まで歩くことにする。線路沿いに道があるのだが踏み固められテカテカに凍っている。約40分ほど歩いて Kretscham-Rothensehama 駅に着くがここが本来の撮影ポイントであった。まだまだ時間が有るのでバス停を探す。近くにあるはずで Kretscham バス停を見つけた。うまい具合に12時10分始発のバスがあるではないか！しかし、Fと注意書きがありドイツ語ではあるが学校の無い日には運行しないのでは？・・・であったが列車まではさらに時間があつたので待ってみる事にした。

11時58分着のバスが12時5分になっても来ないのであきらめて駅へ向かい歩き出すとバスがやってきたので引き返しバスに乗車。Cranzahl Bhf まで戻る。ここでも時間があつたので人っ子一人居ない駅舎で念のために持参したクロワッサンとアップルパイで昼食とする。ショップが有るも営業していなかった。



一休み後に下ってくる列車の到着も撮ろうと数年前に撮影したポイントへ急ぐ。雨の中待つことしばし、霞んだ中を逆行で走る SL を撮影するも距離が離れていて霞んだ写真しか取れなかった。線路際で改めて撮影ポイントを探し、約30分、小雨の中で引き返して登ってくる列車を待つ。

正位でやって来た SL を撮影するが今度は距離が近いので何とかなつたと思われた。天候が悪くどうしようもないのでドレスデンへ帰ることにする。Cranzahl 駅に戻り DB にて引き換えしたが今回の撮影では SL 列車への乗車が無しであった。初めてではなからうか。

Floha からの列車は朝乗った列車と同じ IRE のディーゼルカーであった。ドレスデン駅の手前、Freital-Hansberg 駅から狭軌の SL で走る Fichtelberg 鉄道が出ているが約10年前に洪水で運行停止になっていた。駅を通過の際に注意してみると煙をはいた SL が見えた。で、ドレスデンに到着後直ぐに各駅停車にて引き換えした。疲れているのに SL を見ると元気が沸いてくる。すると丁度機関車の付け替えの最中で時間も都合よく往復出来るので早速乗車する。往



復14ユーロだった。

十数年前に一度訪問し、森林の中を走り、木々が生い茂って視界が利かず撮影にはあまり向かいと思っていたが洪水のために木が倒され、さらに冬で落葉しているために撮影には持って来いとなっていた。上り勾配でスピードが遅く、冬のために白い煙を盛んに吐いてくれるので夢中で撮影した。これはすばらしい！車窓からだが何枚も何枚も撮る。乗客が居なく前後左右に移動、窓を開けばなしで問題なし！明日も来なくては！！



終点に着くころには薄暗くなり撮影は出来なかった。帰路、明日の撮影ポイント探しながら戻った。DBに乗り換えドレスデン着。疲れて面倒なので駅前のビストロで食事とするがまずい！駅に戻りデザート買ってホテルへ戻った。デザート食べ入浴と洗濯をして日記をつけるがドイツ語のターミネーターを見ながらとなったのでなかなか先に進まなかった。

3月13日(火)

4時20分に目が覚めた。小雨である！！ついてない。6時から朝食なのでそのまま日記の点検をする。毎日2万歩ほど歩いているので朝の散歩が必要ない。今日も線路沿いを一日中行ったり来たりする予定である、今夜は早めに戻って旨いものを食べよう。少々面倒だが。。

昨日見つけた WeisseritztalBAHN の始発に間に合うように朝食を済ませ、準備を終えて7時にホテルを出る。いつものように駅で昼食用に食料と飲み物を確保して7時17分発の列車に乗る。車内で改札がありホテルで貰った VVO のチケットを見せたら「市内の交通機関専用で駄目だ」といわれたようで2ユーロのチケットを購入。いろいろと説明してくれるがさっぱりである。



Freital-Hainsberg で下車、昨日来た道である。早速列車に乗車し検討を付けた Spechtriz までのチケットを購入5.5ユーロなり。7:42定刻に発車、がらがらなので車窓から遠慮なく撮影できる。8:06Spechtriz 到着、直ぐに前方へ走り発車のドラフトを撮影するが霧雨が降り続けている。次に通る列車は約1時間後なのでロケハンのため川沿いであり線路沿いを傘をさして下る。

ひとつ手前の駅 Rabenau 直前まで下り数箇所の検討を付け、とりあえず屋根のある木の橋のひとつに雨宿りをかねて撮影ポイントとする。待つことしばし、下りの列車が逆行でやってくる。傘が必要な程度の霧雨が続くためにそのまま次の列車を待つことにするが暇なので荷物を置いたまま撮影ポイントを探して崖を上ったり線路沿いに行ったりきたりするがなかなか適当な場所が無い。

木の橋から線路沿いに上った川原で撮影することにして列車を待つがよくまー雨の続くこと！！撮影後通り過ぎた機関車を撮影していると機関士がこちらを見ていたので手を振って挨拶をすると手を振ってくれた。こんな季節の鉄ちゃんは少ないことだろう。

さて、またまた約1時間の時間がある。雨が降り続くので粘る元気も消失ぎみで Rabenau まで下ることにする。Rabenau 駅近辺にカフェやレストランがあるが全て閉まっている、夏の避暑を兼ねた観光地なのだろう。バス停のような駅舎のベンチに腰掛けて列車を待つ。冷え込んできたようで下りの列車で帰るつもりになっていたが列車の到着間じかになり雨が止み、空も少し明るくなって来たので再び元気が出た。

下りの列車が行くと次は何と2時間以上の間隔があるのだ。で、3.5km上流の Spechtritz 駅を目指してロケハンを開始する。1.6Km 上流の Spechtriz までほぼ2往復することになる。Spechtritz を過ぎてからは線路沿いに木々が多く、また線路が川から高い位置を走るために適当な撮影ポイントが無かった。

結局 Spechtritz 駅の直ぐ手前にある石橋で撮影することとしたが川に橋が無く、列車の時間も気になって通行禁止の鉄道橋横の崖をよじ登って渡ってしまった。改めて列車の時間を確認すると約 30 分待ち時間が有ったので慌てなくても良かったのだ。そこへ駅職員がやってきたので通行禁止の橋を渡ったことを指摘されるかと心配したが次の列車までの時間が有るね？といわれたので時刻表を出して確認して終わった。

待っていると再び霧雨となってしかも冷え込んできたのでいよいよあきらめ撮影後ドレスデンへ帰ることにした。と言ってもそのまま駅で待つこと約1時間を建物の軒下で過ごさなくてはならなかった。

Spechtritz からも 5.5 ユーロであった。後で気づいたが同じ車掌さんから購入した切符の番号がたった33番違い！駅舎での切符の販売が無いので3往復の間の乗客がそれだけなのだろうか？良くやってゆけるなー！と思った。疲れたので終点 Freital-Hainsberg までおとなしく乗っていた。



Freital-Hainsberg 到着直前の機関庫に SL が置いてあるのが見えたので下車後に見に行った。廃車の機関車を撮影後さらに奥の機関庫に行くと職員が居たので見てよいかと尋ねると(もちろんジェスチャー)、付いて来いとのことので機関庫兼修理工場の奥まで案内してくれた。ドイツ語の説明はさっぱり！修理中の機関車の最前方の集塵室が開けているのに照明まで当ててくれた。感謝感謝、しばらく見て回って駅へ戻った。

駅では自動発券機で切符を購入、何とか買ったが近郊区間はゾーン式なのでわかりにくい。刻印するのを忘れそうになったが無事に刻印を済ませドレスデンへ戻る。駅でケーキとコーヒーを買ってホテルに戻る。午後3時なり。

不味かったケーキを食べ残し、コーヒーを飲み、横になるとしばらく寝ていた。目が覚めて日記を記入。外はまだまだ雨が降り続けているようで傘を手にして歩いている人もいる。夕食はどうしよう…。下肢は疲れている、風呂につかると良いのだろうか…。

結局、18 時過ぎたので夕食へ出かけるが小さいながらも霧雨である。市内電車にてエルベ川の対岸、Neustadt 側へ一旦渡り歴史遺産の写真を撮るかと思ったが照明があまり明るくない

ので直ぐに引き返しマルクト広場？へ向かう。12 日の昼間に検討をつけていたステーキの旗が出ていた店を探すが見つからない！そんなはずは無いと思うが見つからないので日本語メニューに誘われ Dresden1900 レストランへ入った。

1900 は 1900 年の意味らしく、名前ふさわしく古い内装をまねてあり、お店の中心には旧型の市内電車が展示してあった。店員は車掌の衣装のようであった。アメリカ大統領も訪れたことが強調されていた。

メニューにステーキがあったのでレアで頼むと出てきたのはミディアム、肉は当然硬いのだが味は良いと思う、でも硬い！食後にアイスクリームを頼んだらホットの野いちごジャムが出てきてかけながら食べるのであったがこれは意外に良かった。残念ながらホイップクリームが山のようにかかっていたのが多すぎた。

電車でホテルに戻り少々のんびりして早めに就寝。

3月14日(水)

3時に日本から電話がかかってきた。まさかドイツに滞在中とは知らず、国際電話の請求でビックリすることだろう。その後はうつらうつらで過ごす。

5時40分に起床。今朝はやや遅めの出発なので日記をつけ、洗面を済ませ、のんびりとする。6時半に朝食に行き、終了後駅に予定より早い列車の時刻を見に行く。今朝は曇天だが雨は降っていない。結局予定通りの列車しかなかったのでゆっくり荷物の整理をし、7時半にチェックアウトをした。

7時53分のICEでLeipzig,Hoff経由でWernigerodeへ向かう。なお、Leipzigとの中間駅に狭軌の客車が止まっていたが機関車は気づかなかった。帰国後調べてみよう。



Wernigerode 到着後直ぐに HotelAltona にチェックインし、部屋に荷物を置いて直ぐに出かける。駅から近いのでありがたい。駅にて3日間チケットを購入、64ユーロなり。11時55分の列車にて出発。経験済みの路線ではあるが冬のために樹木の葉がなく見通しが良い。また、伐採された区域が結構あって見通しが良くなっていた。

が良くなっていた。

まずは Brocken 山まで行くつもりだったが、何と DreiAnnenHohne で機関車の撮影に興奮し、乗換えを忘れてしまった。幸い後発の列車に置いていたので荷物は無事であった。作戦変更で次の列車の到着を駅から数百m離れた場所で撮影することとする。



おかげで思いがけない場所での撮影が出来た。急いで駅に戻り撮影した列車に乗車、Brocken 山を目指す。途中から残雪が出現し喜んでいたら何と雲の中に入ってしまい見通しが極めて悪くなった。その中を登る機関車のドラフトはすばらしい。が、写真は取れない！

針葉樹の背丈が低くなってくると何と霧氷が付いているのではないか、さらに登って積雪が急に増してくると今度はえびの尻尾状態となってきた。これで晴れていたらどんなに素晴らしい写真が取れることだろう！！

頂上はさすがに寒く、手はかじかむし視界数mであるがおそらく1時間前の列車で上ったと思われる観光客も結構居たのでビックリである。もちろん登山客やスキーを持った人々も居た。天気がよければ私も頂上で列車の撮影をしたいものだ。

濃いガスの中で写真もまったく取れない為に乗ってきた列車の折り返しで約10分の滞在で下ることとする。薄暗くなっているので時間は早いですが街へ下ることにして DriAnnenHohne で Wernigerode 行きに乗り換える。車中で時刻表を見ていると途中の SteinemeRenne で次の上り列車の撮影が出来るようなので途中下車。撮影ポイントを探すと足跡がある。撮影ポイントはみんな同じようなところ、ということか。

待っていると列車が来ない！時刻表を改めてみると注意書きがあり3月24日から運行と有るのではないか！超ガッカリ。ここから約6Km 歩かなくてはならないのだが撮影出来ないのにこのアルバイトはつらかった。あまり迷わずに市内へ到着したが疲れた！明日の昼食用のパンとおやつケーキを買ってホテルへ向かう。

しかし、市街地が相当に変化していて新しいビルやショッピングモール？も出来て発展しているように思われる。ホテルで早速ケーキを食べてシャワーを浴び、洗濯をして日記をつけた。ホテルの窓からはハルツ鉄道の機関庫が正面で蒸気音が聞こえるのは素晴らしい。

明日は天気がよければ Brocken 山山頂で雪と樹氷と機関車の撮影を予定。雲の中ならどうするかな・・・。

20時過ぎてホテルのレストランへ行く。街の中心まで歩くのが億劫であった。レストランの窓際に線路が引いてあってメルクリンの O ゲージ？がビールを積んでテーブルまで来る仕掛けになっていた。

食事に何かわからないがメイン料理の豚の項目と牛の項目の間にある料理を頼んだがおそらく鹿ではないかと思った。ウサギなどには肉が大きいので。肉の味も淡泊だったし。

飲み物がほしく街中まで歩いた九時になるとまったく店は開いてない。開いているのはレストランやパブだけである。コンビニには当然無い。不便と思うが・・・。

日記を追加して就寝。

3月15日(木)

4時半起床。ネットで日本の情報を見て過ごす。ユーチューブでは東北地震の人工地震説の講演を見たが面白いとは思いますがどうやって原爆を仕掛けたのだろうか？

今朝も曇天のようで、Brocken 山山頂での撮影は無理かなー！九時過ぎの出発なので暇つぶしが大変だ。

7時半に朝食を食べ、蒸気機関車の撮影と駅の売店へ出かけると何と青空になっているで





は無い！機関車の撮影をしているとバックに Brocken 山の山頂が見えた。これは楽しみである。マレー型機関車を点検していた機関士に今日は動くのかと尋ねると動くよ、9時半発だよ、とのこと。9時10分発の間違いだらうと思った。

水とジュースを購入し一旦ホテルへ戻り、荷物の準備を終え早めに駅に行くと何と魔女(仮装している人たちが数人)が居るではないか！ホームには魔女の絵が描いた車両もあるので何かイベントで特別列車が出るのかと思い駅構内のパンフレットや張り紙を見るが3月15日と記載のものは何も無かった。車両と同じような名所の絵を描いたパンフレットがあったが4月以降の予定であった。



どうなるかわからないので定刻の9時10分の列車で山頂へ向かう。天候が良く日が射しているので本日も連結部から身を乗りだして撮影する。山頂近くになって昨日のえびの尻尾状態を探すが既にどんどん溶けている状態であった。大きな木には残っているが地面近くの木々には付いていなかった。昨日の天気のおかげで付いていたのだろう。

駅の到着後急いで入れ替えを撮影し、下り列車の撮影場所に向かう。下山道沿いが開けていたようなので向かったがらせん状に上ってきたのでどの方向かわからず山頂を一回りしてしまった。無事に撮影が終了し、木に残ったえびの尻尾状態を撮影していると次に登ってくる列車が迫ってきたように思えたので検討を付けていた少々登山道を下った場所へ向かう。その途中で山の向こう側に大きなドラフトが聞こえてきた。特別列車がやってきたのだ！もう少しゆっくりすればよかったと思ったがやむを得ない。



目的の場所までが方向と距離の感覚が合わなかったが螺旋のためなのだろうか。陽射しを

考え何とか線路沿いに場所を確保して昼食のパンを食べながら、待つこと30分、列車の音がしない？何と1時間間違っていたのだ。岩の上に持参の断熱シートを引いてうずくまって待つ。合わせると1時間半ほどじっと時間をつぶした。

やって来た列車を無事に撮影し、頂上駅へ戻る。特別列車がまだ発車していないので急いだ。停車中の列車を撮影していると今上ってきた通常の列車は出発して行った。特別列車の車掌に発車時刻を聞くと14時11分とのことで先ほどの撮影ポイントで特別列車の下りと次の列車の登ってくるのを撮影しよう頂上の反対側へ向かった。



待つこと約15分、下ってゆく特別列車を撮影。ついで待つこと30分少々、特別列車との離合待ちのためか遅れた上ってくる列車を撮影して本日の予定の行動が終了。上ってきた列車に乗るために駅に急いで戻る。頂上付近の山道は雪が残っていて歩きづらく疲れたー！しかし、家で作ってきたダイヤグラムが本日は少し役にたったが日本で考えてきたパターンとはまったく違って臨機応変である。

DreAnnenHohne で乗り換え街まで下る。もちろん機関車の撮影をしてホテルへ戻った。入



浴と洗濯をして日記を付け夕食へ行くことにする。ネットで調べたレストランを目指す。何が食べられることやら。

ところがころが正解で、このレストランは地元の客が多く、私のは満席で次々に断っている。ネットで調べてあたりのようなだった。で、英語のメニューで頼んだ料理はメニューとは若干違っていたがまー味が良かったので許すことにしよう。デザートは

英語のメニューに無く、アイスクリームを頼んだが甘いー！！

駅の売店でジュースを買ってホテルに戻る。日記を追加して今日の予定は全て終了である。

3月16日(金)

残るは後2日になった。今朝もゆっくりの朝である。昨夜は21時半には寝てしまったので1時過ぎに目が覚めTVを入れると何と仲代達也主演の「春の・・・」という映画が字幕で始まった(日本語の声ということ)ので3時過ぎまで見てしまった。さすがにその後寝てしまって6時の目覚ましで起きた。

7時に朝食を済ませ、荷物をきちんと積めてチェックアウトを8時半になって行った。荷物を12時まで預かって貰うことにして出かける。例によって機関庫のSLの撮影である。今日も快晴でBrocken山が良く見える。頂上付近だけ白く帯状に見えるのは霧氷で有ろうか？

9時10分の列車にてDriAnneneHofenへ向かう。今日はお客が少ない。昨日は特別列車の出るようなイベントがあったから多かったのだろうが。

DriAnneneHofenではまず機関車を撮影、その後発車後を取るために前方の踏み切りまで行って撮影場所を確保した。同じ場所には計5名のカメラマンが発車の撮影をしていた。その後は下りの列車まで約40分の待ち合わせである。

下りはDL牽引列車なのでのんびりと乗っていた。到着後11時55分の列車を撮影するのに駅西方の跨線橋へ急いで向かう。無事に発車を撮影してハルツの訪問は終了である。ホテルで荷物を取って駅へ向かう。

予定通りにVienenburgとBraunschweigHbf乗り換えFrankfurtに到着。ホテルは駅の直ぐ横なのでありがたい。古いホテルではあるが悪くない。何とバスタブつきであるが直ぐに買い物に出かける。お土産のゾーリンゲンを買いに市の中心部へ向かう。ホテルマンに教えられた地図を忘れて出てきたので困った。

デパートらしきものがあつたので入ったら丁度日本人の母娘にすれ違ったのでゾーリンゲンのあり場所を尋ねた。4階と教えていただき売り場に行くとゾーリンゲンと共に京セラのセラミックの包丁とKAI(貝?)の砥石が売っているのには驚いた。家族へのお土産に包丁と自分用にはさみを仕入れてホテルへ戻る。一応荷物を詰めてみると余裕があるほどで安心した。

19時になったので夕食へ出かける。買い物の帰路にシュバルツヘクサと言う豚肉の脛の部



分を焼いた料理の看板を見つけていたのである。ドイツの名物料理と思うので食べたかったのでその店へ向かう。ステーキ店であった。少々量が多かったがビールと共に夕食を楽しんだがデザートは入らなかった。

帰りは駅構内によってデザートと孫のお土産に雑誌を買って帰った。バスタブにて身体を休め、日記をつけていると 23 時

なろうとしていた。眠い！！

3月17日(土)

いよいよ最終日である。いつもの様に最終日は万が一に備え時間の余裕を見ての計画である。8時 22 分発とやや遅めの出発であるのでゆっくり朝食を済ませて飛行機に預けられように荷物を整理してきれいにパッキングをした。7時 40 分にチェックアウトをするがフロントは日本人の女性であった。思いがけず出ビックリ。

早めだが駅に行くとき既にオーストリアの Klagenfurt 行きの EC は既に入線しており、QBB (オーストリア国鉄) の編成であった。しかも機関車も QBB とは。フランクフルトまで牽引してくるとは驚きである。定刻に発車、タイ人？と思われる家族が座席指定をお構いなく座っている、Heidelberg までの間に 2 回ほど席が変わっていた。座席指定の区間に記載にはくれぐれも気をつけなくてはならない。

Stuttgart で乗り換えであるがこの駅は終端式なので機関車が先頭で止まっている。どうするかと見ていたらパンタグラフを下げ、後方のこれから先頭位に別の機関車がつけられた。おそらく次の終端駅まで牽引されたままで行くのだろう。はじめて見た運用である。

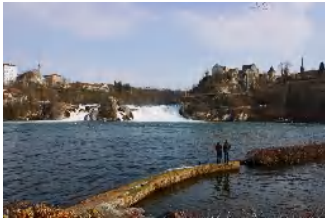
Stuttgart からは予想通り高原地域を延々と走った。森林地帯はあまり無かったが木材の搬出はなされていた。車内で昼食を兼ねてクッキーとマーフィンを食べ、Singen で乗り換え13時 24分に Schaffhausen に到着。まずトランクをロッカーに預けようと思ったらコインがスイスフランの表示ではないか！スイスなのだ。

で、まずはキャッシュディスプレイを探す。何のことは無くプラットホームの端にあった。100スイスフラン (Fr) 手に入れたが約9000円であった。コインが無いので空港までの切符を買うが18Fr なり 30 分強ぐらいと思うがスイスは物価が高いなー。

改めてロッカーに行くと使用料が8Fr であった。キオスクで両替してもらいトランクを預けたが操作方法は日本と同じほっとした。

駅前の地図でライン滝を確かめると結構距離がありそうであったがバスルートが不明なので川沿いに行けそうなのでとりあえず行きは歩くことにする。

が、遠かった！まずは川沿いに出て歩いたが50分ほどでやっと滝の直ぐ上にかかる線路横にたどり着いた。そのまま川の右岸を下りたかったが歩道は通行止めで鉄橋に付随した人道橋を対岸へ渡らざるを得ないようになっていた。いまさら引き返せない距離だ。対岸にはライン滝見物で有名なお城があるのだがたどり着くとライン滝を見るポイントに行くのは有料なり。



それでは、と対岸へ船で渡ったが 1.8 ユーロ。コインの残りが有ったので良かった。結局なんやかんやで観光客からお金を取るために人道を通行止めをしているのでは、と思いたくなる。

とはいえ、さすが有名観光地。丁度午後の日が射した為もあって景色としては良い場所であった。写真を撮って帰路はどうするか…。同じ道に戻るのには癪の種なので右岸を市街地方向へ登った。



検討をつけて歩いて Neuhausen の市街地に入るとバス停があり Shaffhausen Bhf 行きがあったので乗車する。乗車前にチケットを購入したが 2.7Fr と初乗り区間にしては少々高いな一と思った。バスに乗って 3 バス停を過ぎても数駅先まで表示されるバス停に Bhf が出てこない。川側を見るとまだまだ先ほど結構歩いた景色であった。相当に歩いていたのだ。

時間があるしお昼が軽かったので街中方向へ歩いてピザ店を見つけて入る。何と 20Fr であったが大きさが 25cm ぐらいと大きいが今までのドイツでの食費の安さからはビックリだった。

のんびり食べて駅へ向かい、重いトランクを引き出してプラットフォームへあがる。2 等車で空港へ向かうが 45 分の距離であった。この距離で 18Fr. は少々高いのでは…(スイスの物価?)。

17 時 59 分空港到着、しかし便利ではある。チェックインは通常 3 時間前からなのでそのままチェックインカウンターの前で待つ。早めにチェックインが始まり 21.7Kg のトランクから開放されて出国手続きを済ませる。E ターミナル最新の、つまり遠くて不便なところにあって地下まで下ってパスポートコントロールを受けると乗り物が待っている。システムはサンフランシスコのケーブルカーである。計 4 本ケーブルがあったが地下トンネル内でカーブもあったがまさにケーブルカーと同じようにケーブルが動いていた。

お店を覗きながら KAL ラウンジに行き、飲み物を飲んで一息ついて日記を入力する。後はチョコレートを買って搭乗をし、短い夜を過ごすインチョン到着である。どんな用件が待っているのだろうか…。

定刻より 20 分ほど遅れて出発。まもなく夕食が始まったが眠い！ 23 時半に食事がやっと終わって電気が消え外を見ると快晴のようで星が良く見えたが残念ながらオーロラは見られなかった。眠る。

3 月 18 日(日)

午前 3 時に目が覚めた。そのまま映画を 2 本見て過ごす朝食の時間となったので窓を開けると丁度凍結したバイカル湖の上空であった。初めてみた。その後は日記を記載してインチョン到着まで過ごした。

KAL ラウンジで約 2 時間の接続時間を過ごし福岡行きに搭乗。福岡まではシートベルト着用サインが出っぱなしであったが予定通りに帰国できた。タクシーで飛んで帰って今回旅は無事に終えた。数日間は時差ぼけで睡眠不足であろう。